

## 普及活動情勢報告（平成30年2月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

### 平成30年度「土佐天空の郷」栽培にむけた個人面談を実施



次年度の栽培計画を  
1名ごとに協議

1月23、24日の2日間、本山町特産品ブランド化推進協議会は、生産者33人を対象に本山町農業公社で個人面談を行いました。  
普及所は、29年産米の収量・品質結果を基に個人毎の課題を整理し、30年産米に向けて病虫害（ごま葉枯病、カメムシ類等）防除方法、使用する土壌改良資材・肥料等を生産者と協議しました。  
生産者からは、「去年は、カメムシ類で等級落ちてしまった。本年は、全量一等米となるよう防除を徹底する」等の声が聞かれました。  
今後、普及所はブランド米の高品質安定栽培に向けて、地域一体となった病虫害防除等について支援していきます。

### 意欲満々 ～甘長トウガラシ先進地視察研修～



熱心に見入る参加者

1月25日、今年から新たに甘長トウガラシの栽培を予定している新規栽培者10人が、南国市への視察研修を実施しました。  
普及所は甘長トウガラシの栽培状況を把握してもらうため、JAや中央東農業振興センターの協力のもと、現地ほ場と出荷場への視察研修を計画しました。参加者からは「日焼け果はどれくらい発生するのか」「整枝剪定はどのように行っているのか」「出荷形態はどうなっているのか」等の質問が出されました。  
今後、普及所は講習会の開催や現地巡回による細やかな指導を行い、生産が安定するよう支援していきます。

### 次年度の栽培にむけて ～花卉部会が総会を開催～



課題を活発に討議

1月25日、JA土佐れいほく花卉部会はJA本所で総会を開催し、部会員4戸（6人）が参加しました。  
普及所は本年度実施した「ユリ‘ノーブル’での「まもるん」を利用した葉枯病防除実証」、「オリエンタル系ユリ八重品種特性調査」の結果報告や、課題となっている夏場の高温対策やトルコギキョウ萎凋病対策等について試験研究事例を交え情報提供しました。  
農家からは「夏場の高温対策では「ヒートポンプ」による夜冷処理導入を検討する等、高品質花きを継続出荷できるよう取り組みたい」等の意見が出され、課題解決にむけた活発な会となりました。  
今後、普及所は実証ほを設置する等、病害や高温対策等の課題解決に取り組んでいく予定です。

## 集落営農に取り組んでみませんか？ ～土佐町集落営農研修会～



熱演する土佐町・普及所一座

1月29日、土佐町あじさいホールにおいて土佐町主催の「土佐町集落営農研修会」が開催され、町内外から25人が参加しました。普及所は土佐町と連携し、研修会の企画・運営を行いました。

研修会では四万十町の「見付権七営農協議会」林将一会長の講演により、集落営農が地域の農業のみならず、集落の存続にも貢献している取組を学び、参加者の集落営農への関心が高まりました。講演の前座で、町と普及所の職員により、集落営農を身近に感じてもらえるよう寸劇を披露し、会場は温かい笑いに包まれました。

普及所は今後も集落営農の裾野の拡大にむけ、関係機関と協力して新たな組織育成を目指し取り組んでいきます。

## 笑顔で雪かき、腕も笑う ～職場環境整備～



一心不乱に雪かきする職員

2月1日、嶺北地域はこの冬一番の寒波が到来し、一面雪景色となりました。普及所の前の道路や進入路には一晩で10cm以上の雪が降りつもらりました。

このままでは来所する農家や公用車の運転が危険であると判断し、家畜保健衛生所の職員も含め職員8人でスコップやほうきを手に雪かきをしました。雪に腕をとられながらの慣れない作業でしたが、1時間ほどで道路や進入路に人や車が入って来ることが出来るようになりました。

職員からは、「凍結する前に早めに対応できてよかった」「一緒にやれば短時間で終わるね」との声がありました。

普及所は今後も職場環境の整備に柔軟に対応していきます。

## えいユズを作るぞ！！ ～病虫害防除暦の検討～



熱心に協議する部会役員と営農指導員

2月5日、普及所で柚子部会の役員2人とJA営農指導員、全農担当者、普及職員の4人で次年度の病虫害防除暦を検討しました。

青果のは収益性は酢玉より高いのですが、夏場の防除作業が欠かせず、生産拡大のネックになっています。

そこで、できるだけ防除回数を少なくするため、病虫害の発生状況、天敵等の生物農薬、化学農薬の防除効果等の調査・実証結果を情報交換したあと、年間の防除体系について検討しました。

部会役員2人は研究熱心で、自らの経験や独自に収集した情報を積極的に発言し、その多くが防除暦(案)に反映されました。

今後、篤農家の意見を聞いたうえで、防除暦の最終版を作成し、4月には部会員への説明会を行う予定です。

## 本山町の農地を守りたい！！ ～集落営農組織が四万十町に視察調査～



説明に聞き入る参加者

2月6日、本山町が集落営農研修会を開催し、町内2つの集落営農組織と本山町・土佐町・普及所の関係職員など16人が、四万十町の「(一社)しまんと農楽里」と「営農支援センター四万十(株)」を視察しました。普及所は、視察先の情報提供や企画調整を行いました。

本山町は農業公社を核に既存の集落営農組織との連携を強化して、農地を守る仕組みや体制の整備を検討しています。今回は、中山間地域等直接支払制度の広域連携による加算金や多面的機能支払交付金を活用した事務委託などについて学びました。参加者からは、事務手数料や運営方法について、多くの質問が出されました。

普及所は引き続き農地を守る仕組みを構築し、実践するための活動を支援していきます。

## 夏秋ミニトマトで緑肥(ライムギ)の生育状況調査



ライムギの生育状況

2月7日、有機栽培ミニトマト農家で実証している緑肥(ライムギ)の生育状況を調査しました。

ライムギの播種を10月上中旬の3段階に分けたところ、草丈は上旬では約50cmとなりましたが、中下旬では約30cmでした。

実証農家は「ライムギの生育量を確保するために、9月にマルチを除去して播種するのが良いのではないかと緑肥の栽培に手応えを感じていました。

普及所は、ライムギを粉砕する3月下旬に生育量を調査して、効果を検証する予定です。

## 今年の反省を糧に来年にむけて頑張ろう！ ～第7回クルベジ定例会～



課題解決にむけて協議

2月7日、(株)大豊ゆとりファーム職員5人と普及所3人が参加し、第7回クルベジ定例会を大豊町農業センターで行いました。

今年度の収量・販売額を確認し、次年度にむけた課題を整理しました。

普及所からは、「収量をあげるためには地域の篤農家の技術を学び、自分と何が違うのか把握していくこと。肥料のやり過ぎは経費がかさむだけでなく収量減になることもある」など、具体的に指導しました。

次回は来年度になりますが、引き続き定例会を開催し、販売額向上を目指して重点的に支援していきます。

## 最後までぬかりなくきちんと！！ ～ISO監査～



書類を確認する監査員

JA 土佐れいほく園芸部では、れいほく版 ISO で環境保全型農業を推進してきましたが、平成 30 年から国のガイドラインに準拠した高知県版 GAP に移行することになりました。

1 月 31 日と 2 月 8 日には、平成 29 年度の活動を締めくくる最後の内部監査と外部監査を JA 本所で実施し、JA 園芸部役員 5 人が参加しました。

普及所は、内部監査ではオブザーバーとして助言し、外部監査では進捗を補助し、大きな問題もなく終了しました。

今後、普及所ではれいほく版 ISO の取組を活かして GAP が実践できるように支援しています。

## 本山町の農業・農地の課題や対策について検討 ～集落営農を考える交流会～



農地を考えるグループワーク

2月16日、本山町役場で「集落営農を考える交流会」が開催され、本山町内の3集落営農組織から役員5人が参加しました。この交流会は集落営農組織と（一財）本山町農業公社が連携し、農地を守る仕組みづくりを目的に平成26年度から実施しており、普及所は企画・運営を支援しています。今年度は、中山間地域等直接支払制度の集落協定農地の維持を切り口に、農業・農地の現状と今後の予測をマップ上で「見える化」して、現状の認識を共有することで、今後の農地の保安全管理の課題や対策について検討しました。

参加者からは「今日検討した解決案等を地区の総会で話したい」「関係機関も説明に来てほしい」等の意見や要望が出されました。

普及所は関係機関と連携し、引き続き農地を守る仕組みが作れるよう支援していきます。

## 女性農業者の活動支援 ～嶺北地区農村女性リーダー協議会総会を開催～



総会を終えたリーダー達

2月13日、農産物販売等の視察を兼ねて嶺北地区農村女性リーダー協議会総会を高知市で開催し、嶺北地区の農村女性リーダー9人が出席しました。

総会では、活動実績、活動計画、役員改選等について協議しました。次年度の活動計画では、「交流実績のない他地区の農村女性リーダーと交流したい」「6次産業化等の先進地を視察したい」「ハーバリウムを技術習得したい」などの意見があり、活動時期を含めて検討しました。

今後、普及所は日程調整や視察先等の情報提供を行い、農村女性リーダーのスキルアップを支援していきます。

第2回嶺北地区農業改良普及推進協議会を開催  
～普及活動実績や地域課題解決などについて意見交換～



活動成果を報告する職員

2月21日、農家代表とJA、町村関係機関など14人の委員全員が参加し、今年度2回目の普及推進協議会を普及所で開きました。

会では、普及指導計画の総合及び個別課題、GAPの推進、来年度普及指導計画の課題体系表（案）などについて職員が説明し、委員から意見をいただきました。

委員からは、ユズの加工販売による所得向上対策、酒米での品質向上支援、高知県版GAP移行にむけた事務局設置、はちきん農業大学での野菜栽培講習会の実施などについて、幅広い積極的な意見や提案がありました。

普及所は、委員からの意見を参考にし、来年度の普及計画書の作成や普及活動に生かしていきます。

販売拡大にむけ、量販店で試食販売を実施！！



感想を聞く普及職員

2月18日、「本山町キムチ生産組合うれっこ」のメンバー3人と普及職員2人が参加し、香美市の量販店で、化学調味料を使わず素材にこだわったキムチとキムチ入り餃子の試食販売を行いました。

商品PRや試食を行い、開始の10時半から約1時間で、準備したキムチと餃子が完売しました。また、アンケートに答えていただいたお客さまからは「美味しい」「どこに行けば買えるの?」という声が多く聞かれました。なかには、1人で10パック購入する方もいて、大変好評でした。

普及所は、同組合が今回の経験を販売促進活動に生かし、量販店との買取契約につながるよう支援していきます。